

令和6年度第2回学校運営協議会 議事録

1 会議名 静岡県立熱海高等学校学校運営協議会 (第2回)

2 開催日時 令和6年10月26日(土) 13:25 ~ 15:35

3 開催場所 静岡県立熱海高等学校 図書室

4 参加者 学校運営協議会委員4名、管理職4名

5 会議の概要

(1) 文化祭に取り組む生徒の様子について

委員A:一生懸命取り組んでいる。協力して大きな声でやっている。

委員B:前より規模が小さくなったのは残念だが、楽しくやっていた。

委員C:規模が小さくなって、きゅっとしていてよい。全ての生徒が役割をもって関わっている。

委員D:吹奏楽部2名がステージに立ち、1人1人の役割が大きく、良い経験だと思う。学年に垣根が無いように感じた。

(2) 学校の近況について

教頭:出欠席について、1年生は6月の時より増加している。最近、体調を崩す生徒が増えている。

2年生は6月時点より減少しているが、多い傾向。3年生は進路が決まっても休んでおらず、欠席は少ない。

就職に関しては求人が増加している。情報過多で、直近の先輩が就職したところを受ける生徒が多い。2年連続で第1希望の就職先への合格率が100%であり、今年度も現在まで第1希望で内定している。昨年度より求人票をデータ化し、生徒や保護者がオンタイムで閲覧できるようになっている。進学について、指定校推薦を利用できるが、特待生制度のついた総合型選抜で受ける傾向がある。

キャリア教育の視点を取り入れ、頭髮やアルバイト規定の見直しをし、生徒が自らどうすべきかを考える力を養っている。ヨット部、陸上部が東海大会に出場した。朝食の接種率の低さが課題であり、食事の重要性と正しい知識を学ぶために食育講座を予定している。

委員A:特徴ある学校にすることを考えると、あり得ないといわれるようなこともやることを考えた方がよい。できるかできないは別として、家で朝ご飯を出してもらえないなら例えば「朝食を出す学校」などを検討してみてもどうか。

委員B:ヨット部がなくなるのはもったいない。部員が活動する場として、学校の部活動でなく地域に移行する方法を考えられないか。地域の大人が主体となる必要がある。ヨット部OBもたくさんいるはず。これからは人数の多いチーム競技は生徒数が少なく、難しいだろう。ヨットは2人いれば大会に出ることができる。エイサー部も熱海高校の特色になる。

(3) 「行きたい学校づくり」について

副校長:昨年度までの「オンリーワンハイスクール」事業が終わり、今年度から新たな「行きたい学校づくり」の事業に取り組んでいる。100万円の予算の中で他校の探究活動についての視察や、本校での探究活動の取り組みに対して予算を組んでいる。1年生は地元である熱海市内の調査を行った。2・3年生の探究は2学年合同で、リノベーション、メディア、自然、国際、食の5分野に分かれて実施している。日頃の指導は教員が行っており、分野ごとに外部講師を招請して授業も行っている。このように、本校の特徴として地域と連携し、充実した活動が行われている。

「行きたい学校づくり推進事業」は本年度から3年間の中で学科の設置やコース編成などを検討し、地元の子供たちに「熱海高校に行きたい」と思ってもらえるような学校を目指している。

委員A:予算を有効に活用できると良い。

(4) 意見交換「小規模校としての熱海高校が目指す方向性について」

委員A:1クラスになってそれを3つのコースに分けると、一つ一つのコースが弱くなるのではないかと。人数が多ければできることも、少人数ではできなくなることもある。コースを分散しないで厳選した方がよいかもしれない。伊豆伊東と同じではお互いにつぶしあいになるので、特色を持たせてバランスをとることが必要ではないか。

委員B:観光ビジネスは若い子には難しい。経験を積んでからやるのがいい。福祉はこれからニーズが増えるので強みになる。福祉は仕事に限らず、人生において重要。生活に役立つ。これからの高齢化社会では、どんな仕事においても福祉が役に立つ。熱海高校に意欲を持って入ってくる子は福祉志望の子が多いと思う。旅館でも、介護の経験がある者や、調理、福祉の専門家が欲しい。厳選するなら福祉1本で特色を持たせるのがよいかもしれない。

委員C:文化祭にもお年寄りが来るようになるとよい。

(5) その他

教頭:次回の第3回の日程について。2月上旬あたりで考えている。

候補日は 1/31(金) 2/5(水) 2/12(水)

今後、日程調整していく。